

職業感染対策 ～風疹～

風疹とは

“三日ばしか”と呼ばれることもあります。

風疹は、発熱、発疹、リンパ節腫脹が特徴とする風疹ウイルスに感染することで引き起こされる感染症です。症状は不顕性感染から重篤な合併症併発まで幅広く、症状のみで風疹と診断することは困難な疾患です。

潜伏期間は、14～21日間（通常16～18日間）で感染期間は、発疹出現1週間前後～発疹出現後4日後となります。

特に問題なのが風疹に感受性のある妊娠20週頃までに風疹ウイルスに感染すると、出生児が先天性風疹症候群(CRS)を発生する恐れがある感染症です。

＊感染経路

- ・飛沫感染
- ・唾液との接触

＊出席停止期間

- ・学校保健安全法：発疹が消失するまで出席停止

＊医師の届け出

- ・5類感染症：直ちに保健所に報告が必要

(風疹を疑った時点で「群馬県麻疹・風疹疑い発生状況報告」を郡市医師会へFAXで報告する)

＊風疹の診断方法

- ・PCR検査：風疹を疑う⇒保健所に連絡⇒検体採取⇒地方衛生研究所⇒PCR
- ・抗体検査：健康保険適応となっており一般的に多く用いられている

＊風疹の治療

- ・有効な抗ウイルス薬はない
- ・基本的には対症療法。(解熱鎮痛剤・補液など)

＊風疹の予防方法

- ・風疹ワクチン2回接種(小児は1～2歳未満1期と5～7歳未満2期の定期接種)
- ・風疹ワクチンは生ワクチンのため1回接種後2回目は27日以上の間隔をあける
- ・わが国では**1962～1976年生まれの男性**は定期予防接種していない



対象者に対し抗体検査とワクチン接種が無料になるクーポンが令和7年3月まで配布されている

- ・ワクチンの注意点

副反応：疼痛・発熱・発疹・アレルギーなど

生ワクチンのため妊婦・免疫不全者・アレルギー既往は禁忌

ガンマグロブリン投与後3-6ヶ月接種しない

予防接種をし予防接種を打てない人を繭(まゆ)の中に入れ守る



コクーン戦略が大切

先天性風疹症候群

- ・妊娠初期に風疹に感染すると、ウイルスが胎児に感染し流産、胎児死亡、先天性奇形(難聴・白内障・緑内障・先天性心疾患・精神運動発達遅滞・子宮内発育遅延など)のリスクが高くなる。
リスク：85%(12週まで)、50%(13～16週)、25%(17～26週)

風疹の感染対策

- ・勤務・実習・ボランティアをする全ての人が風疹に対する免疫を持っていることが望ましい。
- ・風疹に対する“免疫がある”とは
 - ・1歳以降で2回のワクチン接種
 - ・既感染で、風疹抗体陽性(EIA法で8.0以上)
- ・免疫がない曝露者は、最初の曝露から7日目～最後の曝露から21日目まで隔離対応する。